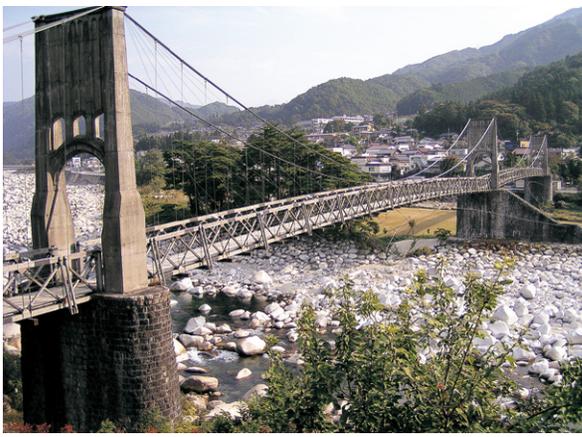


ご当地 自慢

産業遺産「桃介橋」

25

南木曾支署



桃介橋全景

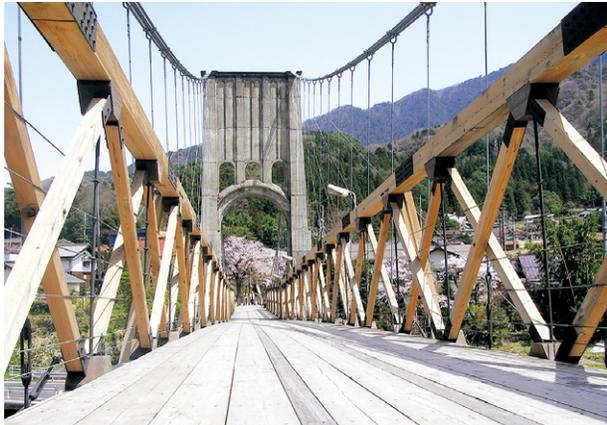
南木曾町（なぎぞまち）は、長野県の南西部、木曾谷の南端に位置します。面積の九十四％が森林で占められていて、うち七割が国有林です。古来から伊那谷、木曾谷と美濃を結ぶ交通の要衝であり、中山道木曾十一宿の一つ「妻籠宿」があることで知られています。

◆桃介橋（ももすけばし）

「桃介橋」は別名「桃の橋」と呼ばれ、大正十一年九月に完成しました。木曾川の水力発電開発に力を注いだ大同電

力（福沢桃介社長）が読書発電所（大正十二年完成）建設の資材運搬路として架けたものです。

その後、村道（現在の町道）として、両岸集落の交通や、高校生・中学生の通学など地域の交通に大いに役立っていましたが、昭和五十年代には老朽化も進み、本格的な修理もできなかったため廃橋寸前となっていました。この間、保存・活用の声が多く寄せられ、付近一帯の天白公園整備に併せて、町が近代化遺産として復元したものです。



復元された桃介橋

桃介橋は全長二四七メートル、幅二・七メートルで、この付近では最大川幅のところにあり、美しく雄大な景観を誇っています。平成六年に国重要文化財に指定されました。

◆福沢桃介記念館（ふくざわももすけきねかん）

「二河川一会社主義」を掲げて木曾川の電源開発に乗り出した電力王・福沢桃介は、木曾における基地として、現在の南木曾町読書の地に別荘を建て、ここから読書や大井などの発電所建設現場に足を運びました。



春の福沢桃介記念館

その桃介を助け、よきパートナーであったのが、わが国女優第一号といわれる川上貞奴（かわかみさだやっこ）でした。

二人は、大井川発電所が完成する大正十三年まで頻繁にこの別荘に滞在し、政財界の実力者や外国人技師などを招いては、華やかな宴を催したということです。

山深いこの地にあって、この別荘だけ

は西洋の香が漂う異国だったのです。建物は、昭和六十年から桃介記念館として一般に公開していますが、大正時代の貴重な西洋風別荘建築としても知られていて、この記念館に一歩足を踏み入れると、桃介と貞奴が過ごした大正ロマネスク時代にタイムスリップしたような錯覚に陥ります。



福沢桃介記念館の様子

◆所在地

長野県南木曾郡南木曾町読書天白
アクセス方法

・公共交通機関 JR中央本線南木曾
駅下車 徒歩十分

・自家用車 中央自動車道中津川IC
↳国道十九号約三十分

お問い合わせ

南木曾町観光協会

電話番号〇二六四―五七―二〇〇一